

旭川赤十字病院に通院中（または過去に通院・入院されたことのある）の
患者さんまたはご家族の方へ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、患者さんの診療情報を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（令和3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号、令和5年3月27日一部改正）」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の問い合わせ先へご照会ください。

[研究課題名]

消化器悪性腫瘍患者における術前フレイルの現状と術後短期成績に与える影響について

[研究代表機関名・所属] 真名瀬 博人（旭川赤十字病院・病院長）

[研究代表者名・所属] 栗原 尚太（旭川赤十字病院 外科副部長）

[研究の目的]

日本老年医学会によるとフレイルとは「高齢期に生理的予備能が低下することでストレスに対する脆弱性が亢進し、生活機能障害、要介護状態、死亡などの転帰に陥りやすい状態」と定義されています。健康な状態と要介護状態の中間に位置しており、適切かつ専門的な介入により可逆的に回復が可能であるとされています。最新の臨床研究では、消化器悪性腫瘍と診断された患者さんの中で、術前にフレイル状態であった場合、あらかじめリハビリテーションや栄養療法を行うことで良好な手術成績が得られる可能性があることが報告されています。本研究では、当院で手術を受けていただくすべての患者さんが術後合併症なく元気に退院出来るため、退院後も健康な生活を送っていただくために、われわれ医療従事者は何をすべきなのかについて解析致します。

[研究の方法]

○対象となる患者さん

2025年4月1日から2026年3月31日の期間に消化器悪性腫瘍の診断で手術施行目的に当科外来を受診され当科にて根治切除術を施行された方を対象としています。

○利用するカルテ情報

カルテ情報：診断名、年齢、性別、身長、体重、併存症、病歴、検査結果（血液検査、CT画像検査）、手術関連情報（術式、手術時間、出血量）、術後情報（退院または転院日、合併症の有無）

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの個人情報に関しては、お名前、ご住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

* 上記の研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

[連絡先・相談窓口]

北海道旭川市曙1条1丁目1-1

旭川赤十字病院外科 担当医師 栞原 尚太

電話 0166-22-8111 FAX 0166-24-4648